

自閉症児三年間の変容

足利市立柳原小学校教諭 慶野礼次

1 はじめに

S児を担任したのは今からちょうど三年前になる。それ以前にS児は一年間就学猶予をして家庭にて生活していた児童である。

わたしはそれまで自閉症児の実態については、ほとんど知識もなければ実際に接したこととなかった。S児を担任し、以来三年間その日その日が火の車の連続であり、新しい経験と試みの連続であったともいえる。この論文はその指導記録ともいえる。しかし、わたしの指導した経過が最良の方法とはいえない。

しかし、徐々にではあるが、S児が変容してきた現在、幾分やすらぎをおぼえる。

2 入学当初の児童の実態

S児全体から受ける感じは顔や格好もまあまあであり、少しかわいみがあった。しかし、会ったときに幻滅の悲哀を感じた。以下、入級当初のS児の実態を箇条書きにする。

- (1) なにをしていてもかん高い声と奇声を発した。(多い時には5秒おきに)
- (2) 動物的な自分勝手な行動が多い。
- (3) じっとしていない子であった。休み時間には気持ちのむくままにどこへでもいった。
- (4) 学級内の物をいじくり、後始末もしない。時には物をいじくりこわした。
- (5) 教師の話すことが通じない。
- (6) わけのわからない一人ごとを言う。
- (7) オウム返しのことばを使う。
- (8) テレビのコマーシャルを紙になぐり書きをする。
- (9) 競輪、競馬、オートレースの開催地、時刻を一人ごとのように言ったり書いたりする。(正確)
- (10) 学級で見ているテレビには興味を示さない。
- (11) 絵には色をつかわない。
- (12) ほめられても、しかられても反応しない。
- (13) すごい偏食
- (14) 大便、小便の始末も何度もかした。
- (15) こよみの曜日についてはすぐにいえる。
- (16) リズム感はよい。
- (17) 母親に初期の一か月は学級での様子を観察してもらう。
- (18) 集団への参加はほとんどできない。
- (19) さがしものの名人であった。

- (20) 文字の筆順については誤りは見られたが、相当の漢字を知っていた。
- (21) 機械に興味を示した。
- (22) きかない点は多々あったが、一面素直な点が見られた。
- (23) S児はからだがやわらかで力を感じない。

3 初期の指導方針

これまで述べてきたようにS児の問題点や問題行動を少しづつでも改善し、解消するために、次のような指導方針をたてた。

- (1) まず、学校生活の楽しさ、学級集団や集団行動に参加する喜びや楽しさを味わわせるようにする。そのため、暖かく受け入れる体制づくりをするとともに、問題行動に対する規制を考え、刺激する場面を多く設定した。

- 1 どこへでも出歩くので、危険を感じ時間中は教室にかぎをかけた。
- 2 たくさんの紙を使用するので四分の一に切り与えた。
- 3 本児にとっての親しい友だちづくりを進めた。

- (2) 学習や日常生活の場で、基本的な生活習慣の習得をはかる。

作業学習、絵日記、工作、歌の指導、給食、朝や帰りの会、日課表の確認、校外学習、宿泊学習、清掃指導などを利用する。

- (3) 奇声については暖かく見守っていくこと、日常会話については先取りことばを教師がいってやり、オウム返しにならぬよう意識させる。

- (4) 両親の指導

S児をとりまく環境の中で、両親の性格、養育態度からうける精神的影響は非常に大きい。特に、両親と祖母との養育の態度の不一致や、過保護的な家庭生活をなくすために特に母親との連絡を密にして、学校と家庭の指導について共通理解を深め、協力体制をとる。

- (5) S児の情緒及び心理面の問題点を改善するため個別指導（例、心理療法及びカウンセリングなど）について検討し、効果的な指導をする。

- (6) S児の能力及び問題点については今後更に究明し、過度の要求や特別視をさけることなど、親と協議した。（特に奇声の解消には協議する。）

4 主たる指導の実際

- (1) [ラポートつけ]

教師や学級内での友だちとのつながりをつけるために、S児を専門に見る係として、女の子をつけ、一緒に並ばせ、授業中の教室での散歩を極力やめさせた。特に休み時間には一人遊びをさせさせた。例えば、すもうの季節になるとよくすもうのまねをするので、教師はS児とすもうをとったり、体育の時間後には必ずてんぐのまをして通りの車などを見させた。このように、特にS児とのスキンシップを多くするよう心がけた。

教室では教師の机の前にすわらせ、時に時間中でも教師のひざの上で学習を進めた。また、入級し

て一か月半で母親が教室にいることを遠慮してもらった。

学習面では、当初は花まるとか、まるなど教師に書かれるのを非常にきらったが、毎日書かれた競馬の紹介とか、テレビのコマーシャルを書いた時、よく書けた時には花まる、乱暴に書いた時には一重まるといった具合に記入していくうちに、教師の記入の方法にも気づき現在では自分からよいものを要求する状態になった。

(2) [生活指導]

日常生活の基本的習慣が身についてないS児にとって、それを習慣づけることは至難なことであった。特に学校での校外学習や宿泊学習には積極的に参加させるようにした。太平山での宿泊学習では、みんなと助け合いながら集団生活に直接参加できたことは、大きな収穫となった。親もともを生まれて一度も離れて生活したことのないS児にとって、母親こいしさに夜の音楽を聞きながら涙を流したという。

特に、今までと変わった集団参加の喜びとともに、着脱、入浴、食事、買い物、夜の集いなど今まで学級では見られない生活の場面を見せられたようだ。

ことに生活指導で配慮したことはS児に必要な場面を設定し、S児でなければできないことをたえず考え、それをことばや行動で表現させるようにした。また、学級内ではできるだけ落着かせるため、教師自ら目標を決め、それをS児の達成目標とめた。例えば、紙を与える量と座っている時間とを比較して、勉強中は座っているほうがよいということをからだを通して理解させていった。入級6か月で自然と落着きを取りもどした。

ことばは依然とオウム返しが多かった。そのためことばを理解させるために「先取りことば」という形をとった。例えば、S児は「給食ですよ、おいで」と言うと、「はい」といわないで「給食ですよ、おいで」という。そこで教師が「S君、給食ですよ、おいで、はい、いきます。」という具合に反応しようがしまいが、たえず、このことをくり返し教えていった。

「奇声の解消」この奇声は教師を一番悩ました問題である。一週間をよく観察してみると主としてはげしいのは、月、水、木曜日に多かった。この奇声の中にもただキーキーと発している時と、金切り声を出してキーキーという状態とがあった。そこで親と話し合った結果、その日には朝から奇声がひどいことがわかった。実はそのまえの晩からである。夜もねむっていないこともわかった。（学校で時々ねむることもあった。）そのことについて親と話し合い家庭での生活にあまり規制しないように、特に情緒の安定を計るように、家庭内での円満な生活が送られるようにということを第一の目標にするように話し合った。

入級し一年半でいつのまにか忘れたように奇声がなくなった。奇声がなくなることにより生活指導の面でもやりやすくなり効果があがっていった。それからもS児に悪いと思われる新しい行動が生じた時、それを変化させるようにたえず働きかけをした。

(3) [作業学習]

現在、作業学習として、箱つくり、飼育、栽培、清掃などをとりあげているが、S児は作業に対しどんどん関心を示さなかったが、三ヶ月もたつうちにしたいに興味を示した。それにはスマーリステップを組み、できる範囲という形をとった。今では集団の中で伍して十分にやっていける

ようになった。

(4) [絵日記の指導]

入級当初は日記帳を与えてほんと関心を示さなかった。鉛筆を手にもっても指導できるようになってから、S児の手をもって、昨日何をしたかを短い文にまとめた。その中でも絵はほとんど書かなかった。

次の段階は教師が昨日何をしたかを聞き、その事を書かせた。（これは毎日同じような文が続いた）。S児の書くのは早いため、短時間で終わってしまうため、毎日紙に書いているテレビの絵や人間をそのまま日記帳に書くようにすすめる。それが徐々にではあるが先生の絵に発展したり、たくさんの人間に発展していった。

現在では、教師が教えなくても絵日記を一人で書くようになっている。

5 S児の変容

S児の三年間の変容をみると、全体に学校生活に適応してきたということがいえるのではないかと思う。入級当初の実態のところにあげた、奇声を発したり、コマーシャル書きをしたことはほとんどなくなった。ただ、こだわりにつながることは程度の差はある、現在も形を変えて続いている。例えば、教師に対する質問、（うるさいほど）友だちに対するしつこいほどの聞き方が続いている。しかし、他の人に迷惑をかけるようなことは少なくなった。集団行動の面からみてみると、授業中には席につきじっとして学習していることや、朝礼にもおちついて参加できるようになっている。母親の付き添いがなくとも完全に学校生活ができるようになってきた。来年度からは学校への登下校も一人でできるようにさせたいと考えている。

学習面では三年間のうちに相当数の漢字を覚え、国語の読みも三年生程度の読みはできるし、簡単な作文ならそばで誘導しなくても書くようになってきた。算数は簡単な掛け算、割り算ならできるようになった。一番劣るのは体育である。

わたくしとの関係は比較的早くついたようで、私が留守にしても学校生活ができるようになった。最近では教師がちょっといたずらをしてS児の係である日記くぱりや宿題くぱりを他の児童に変えてやると涙を流しくやしがっている。ちょっとびっくりしたことである。また、以前は職員室にいくにも便所にいくにも私の後ばかりついてきた。時には職員室のマイクや放送機械をいたずらしてこわしたこともあるが、今では「先生、まって、職員室？、バイバイ」と言って私を送ってくれる状態にまでなってきた。

ところで、S児がこのように変容をみた背景には学級の友だちとの関係が影響していることを見落とすことはできない。三年間そばにつけた女の子たちが毎日日常生活の細かい点に注意をくぱり教師以上の教師の役割と指導力を發揮した点にあると思う。

S児はまだ、オウム返し、なまりの会話をしながらもS児自身のもっている友だちからすかれる明るい性格もあって友だちのだれもがS児の存在を楽しみにするふん囃気が早くからできた。

授業中でもS児が指名されると「S君、早く早く」といってはげましのことばを送っている。

6 教育的考察

以上具体的に実態をあげ、目標をあげ、S児の変容をみてきたが、初めてS児を担任とした時は、この子に果たして教育が可能かどうか疑問視される面が多かったが、三年間の教育的取り扱いによって、ごく微々たる歩みであるが発達していることを認めなければならない。（指導法がどうあれと経過によっては周囲の刺激から吸収した事象であるにせよ、不断の教育の成果だと思われるところも少なくない。暦年齢と精神発達が不均衡な子どもの指導にあたっては精神発達段階を考慮した上の指導計画が重要な問題となろう。）

7 まとめ

(1) 困難点

S児を担任したものの、毎日が不安、不安の連続であった。

最初は観察記録や日記もつけてみたが、これでは教師自身のからだがもたないと途中でやめた。そして、のんき、こんき、げんきに徹することにした。しかし、一步さがって考えてみると、このような症状をしめす子どもを「誰が」、「どこで」、「どのように」「いつ」指導したらよいか。現在の教育の世界ではまったく未開拓の分野と考える。早期にその対策を望むところである。実際の指導の場にあっても「これでよいのか、これでよいのか」もっと早く治療効果のあがる方法があったのではないかと……すべての面で教育上の困難な点となってくる。

(2) 可能性

三年間の経験ではあるが、いろいろ思索して指導してきた結果が変容のところで記したようなものであるが、やはり、それには学校全体の陰にひなたに心強い支援があったからこそ、S児にも教育の可能性が生まれたのだと信じている。ただし、それが普通児の発達過程と比べると本当に微々たるものであるが、担任した当初は奇声に悩まされ、毎日が苦難の連続であった。

今は徐々に、まことに徐々にではあるが変容しつつあるS児を見るにつけ、不安は幾分やわらぎ、暗黒の世界かなボーとぬけ出たような気分すらする。

(3) 今後の方向、指導

現在、特殊学級の中で指導しているが、S児にとって最良の場であると考えていない。今までにも何度か指導の方針をたてなおし実施し、S児の症状により的確にその場その場をつかみ指導してきたが、これからはS児にとて何が大切なことか考察し、重点的に指導しなければならないと考える。

一度覚えたことの記憶のよさからみると、必ずしも能力が低いとは思われないので、学習意欲を育てると共に個別学習の強化が不可欠の条件であると思う。

次の方法として、普通学級との交流が考えられる。S児に合う教科によっては普通学級との交流の量を徐々ふやし、最後には普通学級に定着させ、人間関係・社会適応を広げてやることのほうが本人にとってより教育的効果が生まれてくるものと考える。

（注 S児の生育史、母親の日記、教育相談の記録については本文では割愛する。）

..... 評

自閉症のS児の変容を目指して3年間も指導された筆者の努力にまず感謝申しあげます。特に、S児の指導の実践の一つ一つの中で、「なぜか、どうしてか」という問い合わせと、「これでいいのか」という反省が繰り返され、積み上げられたすばらしいS児の変容には、読書の胸を深く打つものがあります。そしてなによりも、S児の側に立って考えようとする努力が、筆者の実践の中に貫かれていることが大きな力となって、S児の変容を生み出しているものと思います。

自閉症児を教育する学級開設の歴史は新しく、全国的にも昭和42年からの出発と聞いています。本市でも、来年度（昭和50年度）から学級が開設され、障害児への新たな道が開けます。こうしたときに、本実践記録が出されることとは、自閉症児を担任する教師の手がかりとなるだけでなく、特殊教育の多様化への理解と、教育のあり方を問う意味から、貴重なものと思います。